

第2回大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

開催日：平成27年8月20日(木)9:30～12:30

場所：ホテルキャッスル大分2F「ローザンヌの間」

【現行計画に基づく施策の達成状況】

NO	分類	発言
1	全体	しっかりと数値に基づく改革を進めるべき。 県教委とすれば「これもやります、あれもやります」と出さざるを得ないものと思うが、どこかを強めたら他のところを弱めない限り実質的にできない面があると思う。満遍なく実施する施策と時期等によってメリハリを付ける施策とに区別しないと、次にやるべきことが総花的になっては虹蜂取らずになってしまう。「主な課題と対応方針」についても記載事項を全て実施することは難しいのではないかと。目標に照らして優先順位付けを行い、最重点課題、重点課題等に付けることが一つの方法であると思う。
2	全体	民間では、数字を上げたい時に弱いところを誰がどう手を加えるかを考える。教育委員会の方針の教職員への伝達、学校現場のモチベーション向上など、本庁と教育事務所の関係を含め、誰がどう責任を持って進めるのか考える必要がある。また、長期計画の目標達成に向けては、対象期間を短期間に区切って(数値目標を)達成する意識を持つことが必要である。
3	全体	学力・体力など市町村ごとの課題についても精査してみる必要がある。その上で、成果を上げている取組を分析する、結果が芳しくないところの課題を洗い出し改善に繋げるといった視点が重要であり、その意味で数値を活用することができると思う。
4	全体	総花的という話があったが、それをいかに絞っていくか教育現場は考えている。施策を引き受ける最前線の教職員にとって教育方針が定まらないことにはなかなか成果が上がらない。学力向上にしても生徒指導にしても、課題は地域・校種・規模によって異なるものであり、最終的には学校現場において校長が教職員とともに考えて取組を進めないといけない。
5	全体	目標指標は学校で指導していく上で大事な視点。どういうところを重点的に指導し、成果を段階的に積み上げていくのか、各学校で決めていくべき話であり、校長の経営手腕に関わるものと思う。
6	豊かな心の育成	子どもたちの問題行動や不登校の防止、学力・体力の向上を図る上でも、思いやりや優しさなど豊かな心の育成を通じて思考力を付ける必要がある。
7	社会教育	どうしても見えやすい課題に着目しがちであり、県としての人づくりという視点で見て学校教育にシフトしている印象がある。「主な課題と対応方針」に社会教育が出てこないのは、目標設定がファジーで達成可能なものが多いために評価が「◎」からだと思う。もちろん学校教育は大事だが、大分県の人づくりの中で社会教育の分野からどういうアプローチでいくのか、課題が見えにくい社会教育の分野にも目を向けるべきではないか。
8	社会教育	心の問題など見えにくいものは達成も難しいのだが、社会教育(家庭や地域の教育)とも密接な関係があるのは間違いない。重点化して今後10年かけて取り組む施策を考えていきたい。

【新計画(第1章)】

NO	分類	発言
9	教育改革の背景	大分の教育は何もかもが悪い、悪かったという誤解を与えないよう、平成20年の不祥事に関する表現は工夫が必要ではないか。
10	教育改革の背景	「芯の通った学校組織」の取組により、学校運営委員会の開催や主任手当抛出問題の改善など学校現場は良い方向に向かっていると思うが、平成20年の教員採用選考試験等をめぐる不祥事はこれまでの教育改革の流れの一つのキーワードであり、次期計画でもしっかりと触れるべき。
11	教育委員会制度改革	行政の拠り所は法律。今般の地教行法改正により教育委員会制度改革が行われたが、教育委員会は引き続き教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保していかなければならない。こういった法改正の背景や趣旨について第1章に項目を立てて記述してはどうか。

【新計画(第2章)】

NO	分類	発言
12	各論全般	例えば「放課後や土曜日等の学習支援の充実」とあるが、予算的なことも含め地域によって実情も背景も異なるし、タブレット型端末の整備など目標指標に設定されると予算と直結するので更に厳しい面がある。これらに異議を唱えるものではないし、当然一緒に取り組んでいく前提だが、県教委の施策と市町村教委の施策の整合性を考える必要がある。

NO	分類	発言
13	学力 (新大分スタンダード)	新大分スタンダードの4つの内容は非常に興味深い。勉強内容と社会、自然、歴史などの繋がりが見えてくると勉強の意義が分かってくるものであり、全ての授業で問題解決的な要素を盛り込むべき。そうすると時間的制約から従前の2/3～1/2しか授業が進まないこともある。板書に多大な時間を費やしている面があると思うので、問題解決的な授業を行うには、事前に用意したパワーポイントのスライドを板書の代わりに映し出すなどICTを活用した授業に転換していく必要がある。
14	学力 学習評価	問題発見・問題解決能力の育成のためには、子どもたちに考えさせ、表現させ、互いの意見を聞き、そして新たな考えを生み出していく双方向的な授業が不可欠である。そうすると既存の筆記試験では評価することができないので、授業への貢献度を教員が主観的に判断できる評価手法を取り入れていくべきと思う。
15	特別支援教育	「認定講習受講を通じた特別支援学校教諭免許状の取得促進」とあるが、開設教科が非常に少なく免許状取得まで年数がかかるのが実態で、教員には非常に負荷がかかっている。今後開設教科を増やしてはどうか。
16	グローバル 幼児教育	「グローバル社会を生きるために必要な『総合力』の育成」では、国際交流や語学力の育成に力点が置かれていると感じるが、まず直感力や創造力を総合力のベースとして育成することが大事ではないか。これは幼児教育につながっていくところで、直感的にモノを把握するなどのベースとなる能力をもっと丁寧に、幼児期から育てていく教育の仕組みを考えなければならない。
17	豊かな心 幼児教育	小学校学習指導要領に「感性」という言葉が入ったが、幼児期から「感性」を大事に育てていくことが小学校以降の体系的な学びにつながる。「感性」という言葉をどこかに盛り込めないか。
18	幼児教育	幼児教育の記述は教員やカリキュラムの作成といった枠組みに偏っており、要の内容面に触れられていないので、「確かな学力の育成」や「豊かな心の育成」、「健康・体力づくりの推進」等にも幼児教育に関する記述を追加できないか。「主体性を大切にしたい遊びの充実」といった幼児期の教育の大切さについて、義務教育以降の施策に少しずつでも出てくると良いと思う。また、目標指標にアプローチカリキュラムの作成率を設定しているが、スタートカリキュラムについては設定がない。小学校サイドからの目標指標を設定してもよいのではないか。
19	教職員研修	教職員の資質能力向上に向けた研修の方向性を示してほしい。具体的には、学校に教員・管理職がとどまれるよう、県主催の研修と市主催のものを長期的に調整してほしい。また、任意の研究団体は、人材が育っておらず小・中共に瓦解の状況にある。研究団体の事務局は九州と全国とのパイプ役も担っているところ、その事務局が弱体化して困っている状況を共有しておきたい。
20	教職員研修	教育メソッドの変革が求められている現在の状況を踏まえ、ICTに関する研修や研究についての記述を追加してはどうか。
21	総合型地域 スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブは、幼児から高齢者までの健康維持・管理、子どもの体力向上や人間形成などに寄与しており、総合型地域スポーツクラブから中学校の部活動に専門指導員を派遣するなど、今後も大いに活用してほしい。
22	スポーツ少年団	小学校段階では様々な競技を体験させることが重要。現在、スポーツ少年団の試合数が多すぎることを懸念しており、競技ごとにオフの期間を設けるなどスポーツ少年団の在り方を考える必要がある。
23	その他	例えばESDなど教育関係者にしか通じない言葉も散見されるので、用語解説を別途設ける必要があるのではないか。